

2026年度日系社会研修 コース概要

No	17
所管センター	帯広
分野	農業
研修コース名	日本最大の食糧生産基地で学ぶ、6次産業化およびスマート農業を活用した地域経済活性化と農業・農村開発コース
受入人数	10
受入時期	上半期
来日日	2026年5月13日（水）
帰国日	2026年6月16日（火）
提案団体	一般社団法人 とち地域活性化支援機構
提案団体ウェブサイトアドレス	https://tokachi.biz/
研修員必要資格	必要資格：農業経営者、農業協同組合職員、農業系行政職員など農業に従事する者（帰国直後からの研修成果活用を期待するため。） 学歴：高校卒業程度 年齢：不問
研修員に必要な実務経験年数	実務経験3年以上
研修使用言語	スペイン語、日本語
日本語能力（JLPT目安）	N5
英語能力	不問
研修目標	研修員が、日本最大の食糧生産基地の十勝で実践されている6次産業化およびスマート農業を活用した地域経済活性化と農業・農村開発にかかる知見・手法を習得し、自国に適用するためのアクションプランを作成する。
期待される成果（習得する技術）	1. 十勝地域で実践されている6次産業化・高付加価値化、スマート農業が理解される。 2. 日本の農業協同組合の制度や仕組み、地域経済活性化における農協の役割が理解される。 3. 十勝地域で実践されている、6次産業化・高付加価値化、スマート農業を活用した、地域経済活性化と農業・農村開発の手法が習得される。 4. 講義や視察等を通じ、十勝で行われている6次産業化・スマート農業を活用した地域経済の活性化の事例を参考に、自国で活用可能なアイデアを考案し、帰国後の具体的な実施計画を作成する。
研修計画（内容）	1. 講義：独自の開拓の歴史を持つ十勝の農業・農業経営、農業協同組合の概要と地域の農業コミュニティにおける農協の役割、十勝で実践されるスマート農業、地域の農業関連産業の支援施策と支援機関の役割 2. 視察：6次産業化と1次産品に依存しない高付加価値化、生産だけでなく加工や販売まで一貫して行う小・中規模農家の実践事例、多様な生産者が共同運営するファーマーズマーケット、農業関連企業への訪問、農業コミュニティ活性化における女性の役割 3. 討議：グループディスカッション、農業経営者とのビジネス交流 4. 発表：ジョブレポート発表、アクションプラン発表
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	戦後日本からパラグアイへ移住し、幾多の困難に直面しながらもひたむきに開拓する小規模農家だった日系人も、現在では世代交代が進んでいる。小さな規模で農業を営む日系人もいる一方、中には日系社会さらには地域経済をリードする優秀な二世・三世の農業経営者も生まれている。 日本人の移民により結成された日系農業協同組合もまた、様々な危機を乗り越えパラグアイ国内でも存在感を発揮する農業組織となり、農業技術指導や農産物の販売支援などを通じ地域経済の農業・農村開発に大きく寄与している。 こうした日系農業者や農協などの農業関連事業者に対して本研修を実施することで、地域のリーダーとなりうる農業者や農協職員を育てることで、日系社会を含むパラグアイの農村地域経済の活性化に裨益する。 本コースでは、講義・視察・ディスカッションを通じて、地域における先進的な6次産業化・高付加価値化の手法と効果、スマート技術を活用した安定的かつ収益性の高い農業経営について学び、こうした手法が地域経済の活性化に寄与することを理解することを目的とする。また、日本最大の食糧供給基地である北海道・十勝において農業の振興を担う多数の関連団体（行政機関、農協、農業経営者など）と活発な意見交換を行いながら、自国で適用可能な取り組みのヒントを得て、農業経営の発展を通じて日系社会に寄与する人材、地域経済の活性化を牽引できる人材を育成する。なお、本研修はJICAグローバルアジェンダの「5. 農業・農村開発」、「14. ジェンダー平等と女性のエンパワメント」、「15. デジタル化の促進」を念頭に置き実施する。
応募希望者への特記事項	本研修では農場視察などバリアフリーではない場所への訪問が多く含まれるため、配慮が必要な場合には応募の際にご相談ください。